

プロレタリア世界に日本 革命の道と我々の緊急な 任務

革命的昂揚から革命情勢の 過渡期の幾つかの問題

——自然発生性と目的意識性——

(1) 危機の時代の革命家の党に対する価値観

一昨世紀以来の世界に日本階級斗争は明確に革命的昂揚から革命情勢の過渡期に入つてゐる。換言すれば革命的左翼が現代革命に於いていかに立場と実践的能力を持ち得るかが根本的に問われる時期である。正に権力一党一衆の關係が10-8-11、12以来一昨世紀に到る量的拡大としてあつた次元から、決定的かつ新に質的の政治領域に躍進しつつある時である。党派にとつて過渡期の経験や政治的リテラシムのみによつては跳躍を引かれず、革命的な政治組織理論と勝利の死か、を賭けに真に目的意識的な創造的実践能力が欠落した場合、大衆の巨大な自然発生的分解の大海に乗り切れず、大衆の自然発生性を反映して分解の危機を形成する一時代である。

だが権力一党一衆をめぐる過程が、黨派の組織にとつて分解の危機を惹起することを如何に變へてみても、そして党の一枚岩的団結を無内容に叫んでみても、問題は一歩も進展しない。そればかりが組織の無気力と習性政治をバックにせしめるばかりである。それ故この一時代の革命家にとつて最も集約的な目的意識性とは理論と組織との結合を党としての斗争の次元に留まらず、党の過渡期の次元にまでも容赦なく貫徹することである。

一即ち党内斗争の容赦ない闘いを通してのみ、党は純化され、強じんし一枚岩的団結を獲得するこ

とができるのである。

一平和時は党内斗争や台派斗争をいくらかやつて、いかに革命時にあつては一切のことを水に流して、党に集約しなければならぬ。自然発生性の結果、集約と組織と組織とを根底的に掃除する必要があるのだ。

一党内斗争の非妥協性」と一党の一枚岩的団結」との一見矛盾する革命家の遭遇する集中時代としての「飛躍の時期」にあつて、我々はマルク

スレーニンの立場「……党内斗争こそが党に力と生命を与える。党がいまいではつきり区別のある相違をばかすことは、その党の弱さを示す最大の証明である。党は自身を純化することによって強まる。……再び把え返してゆかばならぬ

(2) 権力一党一衆の関する大衆の自然発生性

一それで権力一党一衆の連関で陥ち込んでいく諸党派一同盟内の自然発生性の現代革命に於ける、しかも「革命的昂揚から革命情勢への飛躍の過渡期」の諸形態をみてみよう。

現代過渡期世界の帝國主義國家がその現代性として、侵略と反革命の不統一性を強固に、非革命的結集力の弱さを内包し、帝國主義の不均等発展性を全め引き延ばさざるを得ないところからの経済危機の凶攻と「平和時からの大衆の社会生活の破壊が累積してゐることは既に指摘した通りであり、更に、かかる現代帝國主義國家の弱さは平和時からの諸階級諸階級の分解と利害の対立を深化せしめ國家の統治能力の後退に於いて大衆自身が國家の枠でありながらも自然発生的に自衛武装すると二つの、一曰高度に発達した帝國主義市民社会に逆説的に巨大な武装集團を登場せしめるのである。かかる帝國主義國家の弱さ環と大衆の自然発生的形態は、今、巨大な動向をもつて登場しつつある。その集中的動向こそが①組織を還し、安保組織の反「反革命」の昂まりであり、②全共闘工場評議会の革命であり、③全ゆる集團のゲバ棒武装集團化と利害対立によるゲバ棒戦による解決である。

そして、かかる大衆の離散的高次の自然発生性の集約点はベトナム反戦、安保個別実体解体や個別斗争を通じて末端統治機構解体から佐藤帝國主義政府打倒一中央権力打撃にと集約されつつある。

だが最も決定的に危険なことは、中核派に象徴され、打倒一党一本に到るまで、かかる大衆の自然発生性に排拒し大衆の自然発生的要素を過大評価してゐることである。

一口を開けば日帝の政治経済的弱さをいかに革命の現実性をそこに確信しようとする。

④ 沖繩奪還、反「反革命」性、権力打倒、世界同時

革命に転化し、日帝ナショナリズム、社会排外主義との闘争と自国帝国主義の打倒を扱ふに、

⑤ 現在の社会共闘、工場内の反戦派の工評運動やその

地獄的結末を、永続的な中央権力闘争、武装降参M

に向けての武装や、党的要素を扱ふに即ソ、工ド

運動だと思ひ込んで、同時に中央権力闘争の質と

それを開く部隊に於てのみ、更に個別闘争の質と

の中央権力攻撃の攻撃的陣地を確立するのに対し、

個別闘争の徹底化が即中央権力闘争を支える陣地に

なると考へたりする（個別闘争の革命的指導が中央

権力闘争の攻撃的陣地の基盤を創出しえても、即攻

撃的陣地ではない）。

⑥ 又なる政治的闘争、経済闘争での自然発生的武

装が、権力闘争に於ける攻撃的武装になると考へた

りする。又なる自衛武装が機軸の攻撃を打ち破つ

た例は多くない。打ち破つたのは党米に組織された

独自の権力闘争を意図した部隊のみである。か

かる党によつて組織された、大衆の自衛武装とは全

く分離した部隊の突出した闘いと結合しこのみ、自

衛武装は攻撃的陣地の一環に位置し、しかも自衛的

性格を転換せしめる。

⑦ 大衆の高次の自然発生的性が依拠し解しフ、ミズ

△政府と対立するが故に、「左派帝国主義打倒」の

ものである。

革命を現実的に考へるに、**理想主義**、現代の無政

府主義者は、「政治の最高の質」としての軍事が常

に問われる時代に於て、「軍事内学主義」に反対す

るが、彼らは機軸の確立を「宣伝と組織」のみで

ち破れると思つてゐるのだろうか。

⑧ 戦闘的先進的集団の自然発生的性

我々は、かかる他の諸政治組織を、その階級形成

（攻撃性）に於いて、現代の大衆の高次の自然発生的

性（攻撃性）に於いて、現代の大衆の高次の自然発生的

性（攻撃性）に於いて、現代の大衆の高次の自然発生的

性（攻撃性）に於いて、現代の大衆の高次の自然発生的

性（攻撃性）に於いて、現代の大衆の高次の自然発生的

性（攻撃性）に於いて、現代の大衆の高次の自然発生的

性（攻撃性）に於いて、現代の大衆の高次の自然発生的

性（攻撃性）に於いて、現代の大衆の高次の自然発生的

性（攻撃性）に於いて、現代の大衆の高次の自然発生的

性（攻撃性）に於いて、現代の大衆の高次の自然発生的

性（攻撃性）に於いて、現代の大衆の高次の自然発生的

性（攻撃性）に於いて、現代の大衆の高次の自然発生的

性（攻撃性）に於いて、現代の大衆の高次の自然発生的

性（攻撃性）に於いて、現代の大衆の高次の自然発生的

性（攻撃性）に於いて、現代の大衆の高次の自然発生的

かかる現代ナショナリズムは祖國防衛主義の動きは別な面と直接、間接に隣接してゐる諸國に於いて顯著である。(西独、南ヤト、南朝鮮、台灣等)日本帝國主義國家の内的危機が成熟し、國際的危機と結合し市場問題が全面化した時與で過去に於いて一見アンバランスで解離してゐたものが限りの排外主義政策が現實に迫り、その内在的潜在的原理を顕現せしめるのである。

我々は自主防衛力が強化され、對敵對内危機が深化した場合、大衆の素朴な祖國防衛主義は侵略反革命をも容認する潜在性を有してゐることを確認しなければならぬ。

すでにそのような動きはファシズムの潮流が新生右翼、自衛隊石派、民間公明石派に誕生しつつある。自衛隊はかつてワイマル体制化で國防軍が大衆と離離しながらも20万の將校團を中核にクルツスマタルジョアジの大量軍需生産体制と結合し、一挙に帝國主義國防軍隊に成長し、その力で大衆を一挙に結合した如く、内外の侵略、抑圧、反革命戦争に向けての國防軍隊形成の基礎、將校團と大量軍需生産体制は整備されてきてゐることを指摘しなければならぬ。

次に、現代の國家が機軸的ナショナリズムの存在と危機の平和時からの組織的累積を基礎に自然発生的統合力を失つたとは言へ、経済政治政策全般に渡つて官僚、常備軍、警察の肥大化をてこに市民社会全般に支配網を金と分断政策と暴力によつて計画組織的にあらしめてゐることである。そして平和時からの裏面的諸階級、民の分裂と抗争はそれが主要にプロレタリアにあるが故に小マル、農民がこの斗争に反響することを利用しプロレタリアと農民との間に楔を打ち込み、プロレタリアを集中攻撃し、小マル、農民を國家のものに上からと下からのファシズム的動向を結合せんとするのである。現代帝國主義國家の危機に於ける支配的決定的特質がプロレタリアと農民との分断政策にあることを我々は理解しなければならぬ。

だから我々にとつて機軸的の要諦は全く階級性をむきだしにするものとして写りながら、小マル、農民は國家に不信をもちつつも小マル、農民には依然として「公僕」として写るのである。かかる獨特な分断政策を媒介にして正に「公然」と「隠微」の間に「機軸的」の拡張と反革命突撃軍國が誕生し國家社会が形成される秘密がある。それ故に緊急自衛隊が大衆に對して「悪役」「凶險」の如く登場しつつも支配の内的論理の奥深く理解しない限り、機軸的のバルト的要素のみや、或いは自衛隊の國防軍隊化の可能性やワラ

リマン軍人の存在等をもつて自衛隊の反革命性を否定した即することは出来ず、兵力の弱さは戦術的に最大限利用しなければならぬにしてもその現狀の大衆分断に内的基礎をわいてゐることを理解しなければならぬ。

今や國家は市民社会の「口強派、秩序派、ファシズム派」への分断の中で後二者の「口強派」への反響を媒介にプロレタリアの軍隊よりも軍隊的な最も階級的な反革命突撃軍團として機軸的をてこに再編されつつある。

そしてかかる現代帝國主義國家の「民族と國家」に於ける、そして「暴力」に於ける問題は、帝國主義の内的膨張力の軌道と、國際的國防政治危機が頂点に達したとき帝國主義の侵略反革命戦争を實現せんとするファシズム國家へと転換せしめるのである。へそが「一挙的」なし崩し的に、上から下からかはすぐれてプロレタリアとプロレタリアの政治關係にかかると。

我々はファシズム國家の特徴を侵略と反革命と内的に統一せんとする(日本の場合「反共反米」祖國防衛主義とプロレタリア農民との政治経済的分断の上に確かに、プロレタリアートの粉砕と帝國主義侵略反革命戦争を貫徹する最高度に集中したプロレタリア独裁國家であることを確認しなければならぬ)。正にプロレタリアートとその党の現代革命に於ける戦略・戦術・兵力斗争の諸戦術と建設的が限り限り現代過渡期世界に媒介され、侵略反革命の不統一、危機の引き延ばしからの社会経済危機の慢性化から平時から諸階級の分断と高次の自然発生的性がプロレタリア革命派と階級結合する内的基礎をもちつつあつた國家に對抗しえなければならぬのである。

(M)大衆の分断と党

高次の自然発生的性とそれに排絶した現代のラボル・ジューロの敗北の道は最近の「國際」内反革命の決定な変化の中での増々鮮明になりつつある。

その「急進民族主義、民主主義、平和主義、コスモポリタニズム」の反革命主義が分断し祖國防衛主義とのプロレタリア國際主義の党的指導が決定的に「リフ」であることである。メキシコ・イスパニール・コーベトナム・ルキスタン・ラオス・レーシア・朝鮮等の永続的危機の拡大、他方での中共、自主独立路線等の「一國主義」的限界、ソ連の反革命化と「労働者國家」群内の階級対立の深化の中で、永続的な朝鮮危機の媒介に、朝鮮侵略反革命の軍事的危機の引き延ばしを飛躍せんとしてあり、危機の引き延ばしからの大衆の反響を一体

的に粉碎すべく、フアシヌムへの押し出し、朝鮮半島の統一に必要と認められた自衛隊の帝国内主義軍隊化をもつて強固に押し進めんとしている。

朝鮮危機はEC/27、オクノ、北朝鮮部隊の配備、フオーム、レティナ作戦、他方での中英、北朝鮮の「好戦」的態度、ウズリの中ソ武力衝突等は、人民にとって、朝鮮危機からの自主防衛運動を、日米関係をさておいて緊急の課題にのぼらし、帝国内主義の抑圧の帝国内主義的返還、ASPA、C-朝鮮侵略戦略を外部から容認させ、他方で、帝国内主義が「朝鮮市場を媒介としてアジア市場が死活的生存圏である」ことが、企業、朴チル、農民にまで、帝国内主義が危機になるにつれて浸透し始めていることである。

大衆にとって、日米関係の改変以上にアジアに対する対外政策が焦眉の課題になりつつあるのである。

それ故、日本階級斗争は、戦後始めて大衆的に祖国防衛運動を登場させ、祖国防衛主義を粉碎する裏の「祖国防衛主義の真敵が革命的左翼に向われてきているのである。」

だが、このプロレタリア国際主義の性格も又、日帝自身のアジアの侵略・反革命の第一の悪友として登場し、それが、アジアの革命が反革命の深さの危機に立ちはいかり、アジア人民にとっての革命闘争は、日・米人民の本國の内部で、日米両帝國主義同時打倒の、更に、侵略反革命を阻止する権力闘争の展開如何にかかり、かつ日本階級闘争の危機も「プロレタリア世界革命から」ファシズムの戦争に、全人民の社会政治生活が、その運命が問われる段階に達しているが故に、現実には日米の侵略反革命秩序が阻止されたい限り、ソ連の反革命政策や、中共の周辺革命に適合し、革命を流産させる以外に自にまでに煮つまつてゐるが故に、世界同時革命一世界革命戦争は、当の日本から開始しなければならぬ主体的な位置に立たされてゐるのである。

即ち従来の日帝の経済的・政治的・軍事的には半軍事戦略加担へ背後での自主防衛力強化に對し、大衆の民族性と反・反革命性と、其の国際性が分化する存在し、他方真正右翼が潜在的であつたものが、アジアの朝鮮に煮つまつる運命的危機と日帝の國內政治経済危機が一体化し、日帝自身の自主的朝鮮侵略反革命行動が急速に日程にのぼることによつて、アメリカに「くっつくか、くっつかないか」の内幕をめぐつて、階級性が争われ、反侵略から、日帝の「侵略反革命」を支持するか否か「ソ連戦争が革命か」に一等に懸置することによつて、民族性・反・反革命性が分離し、他方で、潜在的な祖國防衛主義を公然と登場させたのである。沖縄闘争も又尖鋭に「奪還」解放「内部」の軍事問題と切りはなされた施政権返還論者を右翼ナショナリズムに譲渡させ、他方左派を「朝鮮侵略反革命阻止、米軍政打倒、前線基地化阻止」日米両帝國主義打倒「世界革命戦争」に分解し結束させつつあるのだ。急進的民衆主義・反・反革命運動がそれ自体、自然成長的に革命闘争に発展しないばかりか、反対に、反共ナショナリズムの自主防衛運動に再編されてしまふことを示したのである。

勿論、大衆の漸次の自然発生性の広がりには、学生層、中小企業労働者にとどまらず、官公界から民間の大手を除いた部分へと急速に進展しており、4ノ5に於て、社会共闘への結集はわずか2ノ4万にとどまり、社会党・総評に命敵は幾ばくもはいふことは明らかである。だが多くの戦闘的労働者が同盟の地区活動と共済活動の保証されたいところ、或いは地区活動が弱く、産別的連携のメシカもち切れたところでは、労働者は互に連帯に求むるが、銀座・新橋の野次馬としてのみ登場していることである。同盟の「社会主義統一戦線か、武装労働者の

中央権力闘争から」のストーリーは買収しあつた。中央権力闘争から」のストーリーは買収しあつた。かかる自然発生性の拡大と、その頂点に於ける祖國防衛主義的プロレタリア国際主義の対立は、党的指導から若しした場合、「エリート」から胎動する祖國防衛運動に屈服される事態を生み出さずにはおかない。すでに学生戦線の後つかの事件は、かかる事態を予言してゐるのである。第二は、全共闘運動や自衛隊の動向や、工場個別闘争に於ける工評運動に集約される諸動向へスト実行委、拠点スト、地域共闘、地域階級的労働力、我々はこれ等の先進的大衆の自然発生的運動の意味を否定しはしない。だが革命的左翼の第一義的任務をここに置くことは決定的に誤りである。このよう運動が権力と資本によつて、ロックアウト、レッド・パージを食つても、右翼から覆奪されても、権力闘争の戦列に永続的に組織的指導を行わねばならぬ。このよう運動の組織化を第一義的におくことの背後には、「全共闘運動」「ソヴィエト運動」や、「全共闘的団結」「コミューン」的団結など「自己防衛武装」「権力奪取の武装力」と考へる思考が存在する。確かにこれは色んな段階の独裁への萌芽であるにしても、我々はソヴィエトを、その指導部に於ける政治闘争一戦線の問題と考へ、帝國主義政府を武装蜂起によつて打倒し、内戦と世界革命戦争を突進する新にたつた祖國国家だと考へるが故にソヴィエト運動は、革命政変に媒介された武装蜂起と内戦と世界革命戦争をめざす、革命的に武装され軍隊をデコにして、存任しはしないが故にそのようものへと、中央権力闘争、政治、経済闘争を通じて、資本闘争を媒介に暴動させなければならぬ。

実際、革命米の組織された部隊と結合しは限り安田政防は闘えなかつた。過水差の闘いもどうであり、4ノ8闘争のなかで、中央権力闘争を闘う過程で、ソビエト派が分離し、政変に指導されてゐることも事実である。

ロシア革命の6月に至る、ソビエト反動化、形勢化し、ボルシェヴィキが党としてコロネロフ反革命粉砕、武装蜂起を彼等に準備する過程で、ソビエトを蜂起の機関に変えていつてことや、或いは独のレーナが市民の人々を二十が解散し、オスロイテヤスベルタクスス、レーナの名に於て反革命的に粉砕されたことを銘記しなければならぬ。

あると大衆の關係が理解出来ず、全只ソビエト工団や下々の自然発生的団結が種々此の事態は、向ふりも彼自身が大衆に訴え、党としての任務を理解出来まいと云うところにある。

現に彼の、種々の大衆の戦斗的団結機関を統合し、蜂起し内戦し古界革命戦争を切り開く。ロレタリヤ革命政府人とそれと臨時的名のものをあつち合し、自己武装を党の直轄にいた部隊の活動を通じ、正規軍人組織する任務が自にうければ、権力とファシズムの反革命突撃隊の前に解体が独立して強いられるだろう。

オスロ、中央権力斗争に對する自然発生的性とその非難である。中核であれ、共産党であれ「中央」は斗争しと云う押提系連立候補中央斗争しと云う打つて、我々の中央権力斗争に4/28におお／＼つてきた。

現在の階級斗争が、左下帝國主又政府と反政府斗争に在ることは当然である。

だが又、その長望や位置付けたるや全く至極主義、自然発生的性でいふ。

彼等は又云ふ「中央」斗争が、古界革命戦線に占める位置や、その口絶人の道に於て現政権と如何なる対抗關係を組織、水準をもち、如何なる位置を占めるかは全くなく、せいぜい中央斗争を終極まで推しあげれば、権力規程振起の状況主又的なる「政治危機」や政治危機が形成されるし、権力斗争の負をもつて斗争はせといふ、全く機軸を規定して置くことしなうていふ。

又云ふ「大衆が中央に引き加ふるから行く」式の伴隨する非計画的中央騒乱主義が、権力の鋭集した政治的軍事の準備の下に、ひととまりもなく粉砕され、その騒乱を通じ、小ブル、右翼、公明、右派、自己派右派のファシズムと戦争派を対極に生か落し、権力とファシズム運動に二重包囲され、このもを以て計画的に打ち出さなうといふ意味で、この最も糾つた先進的人民が瓦礫するといふ意味で、中央権力斗争人の自然発生的の準備は決定的な、現在の「革命派」の犯罪的立ち遅れとなつていふ。

我々は、左下帝國主又政府打倒—中央権力斗争を以下の諸点に於て捉えなければならぬ。
① 左下帝國主又打倒—中央権力斗争の終りとめえ

は、ともあれ大衆の蜂起、中央に結果すること自体、市民社会の根底的危機に根ざし、その根本的解決をめざし、本能的に現政権を打倒することと既存権力を打倒することとが一体であり、是の者人民の新には権力を握らうといふこの表明に他ならぬ。

④ 4/28は敵権力にとつて、既成体制の危機ある「口絶」古界革命派「民主主義」派を「ファシズム」戦争派への合解に於いて、このも放置すれば「口絶」派が胎動し、その「口絶」派が不平の階級斗争を、前記的に結合し、内部の「ファシズム」戦争派と独立してこさうのに對して、同時に「ファシズム」戦争派が未分化であれ、自己の政権を支持しつつも、自己の政権に不信を覚え、独自の「ファシズム」運動を開始する危機に對して、どこで、かある危機が一昨年以来、潜在的に開始され、益々顕在化し、その階級關係の推移が、集約的に中央権力斗争に於て定められるようは、階級關係の創造化に對して、へまゝの特異な不変性を内包した階級關係は、極めて類似するものとして、一九三〇年前の独、三〇年代の人民戦後政府が成立する以前、一九二〇年初期の南「我々は」此等を通じて古界の独時なるに附した「ファシズム」の階級關係の典型とすればいいならぬ。この階級關係の到来こそを、革命的立場から革命情勢の決定的一要素とし、口絶は「口絶」する「ロレタリヤ」人民の最も自覺された現象で、これを政治的軍事的に打ち破り、他なるその成果の上に「ファシズム」派と我々派と、鮮明な「口絶」強化「口絶」非階級主義の全体主義的体制へその突進口を朝鮮侵略—侵略法—大衆立法下レバにおくことに、專断し、かつ「口絶」人民の「口絶」帝國主又打倒—中央権力斗争に於る結合を力断し、この階級的「ファシズム」体制を破らし、露け明さ死力を尽して防衛し、我々を打倒くべく、張（外）警備に於て攻撃をかけたのである。

ロシア革命の6月に至る、ソビエトの反動化、形勢化し、ボルシェヴィキが党としてコレクトロフ反革命の起る、武装蜂起を彼等に準備する過程で、ソビエトを蜂起の機関に変えていつてことや、或いは独のレーナが市民の人々を二十が解散し、オスロイテヤスベルタクス、レーナの名に於て反革命的に粉砕されたことを銘記しなければならぬ。

かゝる党と大衆の關係が理解出来ず、全只ソビエト工団や下からの自然発生的団結が強調される事態は、向ふりも豈自身が大衆に脱落し、党としての任務を理解出来まいと云うにある。

現に彼の、種々の大衆の戦斗的団結機関を統合し、蜂起と内戦とを革命戦争を切り開く。コレタリヤ革命政府人とそれと臨時的名のものをあつちあつち、自己武装を党の直轄にいた部隊の活動を通じ、正規軍人組織する任務が自にうければ、権力とファシズムの反革命突撃隊の前に解体を強いられるだろう。

オスロ、中央権力斗争に對する自然発生的性とその狂態である。中核であれ、共産党であれ、中央に對する斗争と云ふ、押提系運動は紛糾中央斗争と云ふ打つて、我々の中央権力斗争に4/28におお／＼つてきた。

現在の階級斗争が、任下帝國主義政府と反政府斗争に在ることは当然である。

だが又、その展望や位置付けたるや全く至極主義、自然発生的性でいふ。

彼等はひたすら「中央」斗争が、世界革命戦線に占める位置や、その口實の道にとりて現政権と如何なる対抗關係を組織、水準をもち、如何なる位置を占めるかは全くなく、せいぜい中央斗争を終極まで推しあげれば、権力規定振りの状況主義的「政治危機」や政治危機が形成されるし、権力斗争の負をもつて斗争はせといふ、全く機械的規定でいふことしてしまつてゐる。

ひたすら「大衆」中央に行き始めるから行く「式」の拝跪する非計画的中央騒乱主義が、権力の密集した政治的軍事的主張の下に、ひとと多りもよく粉砕され、その騒乱を通じ、オスロ、石炭、公明、右派、自派右派のファシズムと戦争派を対極に生か落し、権力とファシズム運動に二重包囲され、こゝもそれに計画的に打ち出まないうい意味で、ひたすら最も「先進的人民」が瓦礫するといふ意味で、中央権力斗争の自然発生的性のは決定的な、現在の「革命派」の犯罪的立ち遅れと云つてゐる。

我々は、任下帝國主義政府打倒—中央権力斗争を以下の諸点に於て捉へねばならぬ。

①任下帝國主義打倒—中央権力斗争の終りとめえ

は、ともあれ大衆の蜂起、中央に結果すること自体、市民社会の根底的危機に根ざし、その根本的解決をめざし、本能的に現政権を打倒することと既存権力を打倒することとが一体であり、党の者人民の新しい権力を望んでゐるこの表明に他ならぬ。

④4/28は敵権力にとつて、既成体制の危機をうける口實—世界革命派「民主主義」派を「ファシズム」戦争派への分解に對して、こゝも放置すれば「口實」派が胎動し、その「口實」派が不平洋團の階級斗争を、前線的に結合し、内部の「ファシズム」戦争派と戦争してこさうのに對して、同時に「ファシズム」戦争派が未分化であつて、自己の政權を支持しつつも、自己の政權に不信を望み、独自の「ファシズム」運動を開始する危機に對して、どつて、ひたすら「口實」派が「ファシズム」運動を開始して、益々激化し、その階級關係の推移が、集約的に中央権力斗争に於て定められるようは、階級關係の創造に對して、へたゝる特異な変化を内包した階級關係は、極めて類似するものとして、一九三〇年前半の独、三〇年代の人民戦後政府が成立する以前、一九二〇年初期の「我々」はこゝ等を通じて渡り占界の独將たるに對して「ファシズム」の階級關係の典型と云はなければならぬ。この階級關係の到来こそを、革命的立場から革命情勢の決定的一要素としなければならぬ。コレタリヤ「ファシズム」人民の最も自覺された現象で、これを政治的軍事的に打ち破り、他をその成果の上に「ファシズム」派と救済派と、鮮明に「口實」派と「口實」派と非階級主義の全体主義的体制へその突進口を組織侵略—政治法—大衆立法下しに、おくれに、專制し、ひたすら人民の「口實」派と「口實」派と斗争に在る結合を力断し、その階級的「ファシズム」体制を破らし、露け明き死力を尽して防衛し、我々を打倒くべく、張（張り）警備に攻撃をかけたのである。

① なる政府の深さと広さ、階級関係と敵権力の対応に對して、中央権力闘争が、世界同時革命・世界革命戦争、世界地形形成に占める位置や、一口独り内戦に到る道程に於て如何なる位置を占め、又その重さ、水準などの程度のもの及びはつきりと確定せず、権力闘争の「質」として、権力闘争の萌芽として、暖昧にし、そこから、暴力装置の武装解除の質を抜きに、「中央闘争の永續化」をばつきりとした、党的意志一致抜きに、「中央権力闘争」を提起した、場合、更に、それが全人民の国際的背景の下での分断か否かと別の新たな質の政治傾向「権力の正否」の根本問題に突き進むが故に、至階級が流動し、権力のファシズム化とファシズム派の登場を促し、連続的な反革命化に対処し得ず、味方の戦線が互に孤立することである。

實際、4/28以降の事態はなる敗北的事態を本質的に進行させている。

勿論、同盟、共産を中核とした、武装労働者の中央権力闘争に於ける第一戦の登場という、新たな階級情勢に於ける、決定的転機を獲得しつつも、

② それ故に、我々は、帝國主義政府打倒・中央権力闘争を、①世界同時革命・世界革命戦争、世界地形形成に占める位置が、帝國主義に階級に於ける権力闘争の開始を突破口とした、世界同時革命戦争の開始として主体的に捉え、②この革命にとって連続的な暴力装置の武装解除にあり、これを實現する過程こそが、ファシズム派のファシズム・戦争の反革命行動の粉砕・内戦と一体であることをあらわすの若定し、その連続的過程を現在から二重に準備する過程に於て、内戦の突破口として捉え、③その水進み武装蜂起に匹敵するものとして、④そして、その突破を通じて、既成の市民社会の、社会革命を内包した分裂と、の順が一層に政治革命と結合する虞へと開けられることに對して、種々味方の戦線の分散地と面面相視の水進み、決定的に飛躍された面面相視と、暴力装置の武装解除の連続的、蜂起・内戦と、世界革命戦争を構う民間の承諾を否々に、そこへ適して、市民社会の種々反革命と一口独り家の類型へとまとめるが、大衆を統率し、独裁としていく、決定的準備を自ら武装集団を参画するが、否々に向うとこの「ロレタリヤ革命政府の樹立を貫徹しなければならぬ。正にここから始めて、ソウイエツ運動は開始されるのである。

我々はこの政府の最少限の最大限綱領と更具体的任務を明らかにするだろう。ななる決定的な階級関係の用編を準備する以前の、種々は戦斗的大衆の運動

と団結は、中央権力斗争と相互武装、経済的占領と部隊とその「エニ」に於てのみ、ソウイエツへの「し」補正ファシズムの専制に對峙しつつ、永続的成長するものである。

ななる根本的政治武装の上に、中央権力の暴力装置を粉砕解体すべき、大衆とは離れた、更に直前にした特殊な部隊（赤軍の中核）は、主として、前もっての準備と前回の突破口の役割として、武装行動隊・大衆大衆の武装の中央権力攻撃・占領の、準備、攻撃的体系が必要であること。

ななる革命の準備から革命情勢への過渡期が、主体的に展開される条件は、国内的革命戦線の、右翼的団結をもった右翼革命派の右翼革命戦争の同時的展開と、唯一「ロレタリヤ革命政府」の非合法的持統と、それを牽引する、ブルジョア・政治的軍政支配体系と、その頭脳としてのブルジョア政治委員会との対応に位置する、全国一貫した革命・中央の向杆的更替をもちた革命党（「ロレタリヤ」）の心臓であり、主として革命戦争の頭脳であり、指令部であることとその主として「エニ」であり、その「エニ」の媒介形態であり、それに結合された、正規軍隊、ゲリラ戦、地下戦等が組み合わされた赤軍である。これは、前述した、党中央に直轄された突撃隊、地方軍、地区ゲリラ軍の構成をもつて最初中国紅軍の如く、救軍隊の「リ」や、分断した部隊を覆蓋するのではなく、準備されねばならぬ。その際、勿論かかる場所が赤軍移動・潜伏に必要不可欠であるが、固定するのではなく、自由に移動でき、大衆のなかに融けこみ、権力の中核を撃つとの正面戦や、地方軍との闘い、或いは他隊とのゲリラ軍や後援となく中央権力闘争等、公然、非公然の有機的連携をもつて、内戦体系を準備する必要があるのである。

④今ある革命的根據から革命情勢への過渡から革命情勢が現代革命に於いて、に案一在保軍へ一自衛隊一米軍一、フアシム突撃軍團等との中央権力斗争とその持続を通じて内戦一世界革命戦争形態をとるが故に党はその政治危機に於いて宣伝組織とともに大きく軍事的技能を獲得し、國際的革命戦争を國際的に相導し得、一世界党へ自らを飛躍する活動を決定的に必須とするのである。

⑤のまとめ

さて様々な角度や領域から現代階における現代的な高次の自然発生性と高次の目的意識性の関連を述べ、その克服の方向を確認してきたが、再度これらを総体として内的運動を明らかにしつつまとめよう。

①10、8、11、12以降10、21から東大斗争を経る中で、革命的左派の独自の先導的斗争は、広汎な高次の自然発生的運動（即ち10、11年党派に於いてのみあつた運動が大量のものとなつた）一在保斗争一一反革命斗争、全在斗争、階級的階級斗争一カバ斗争、自衛武装、中央一権力斗争一中央斗争一と過去の党活動がそれまで成長しつつある。そのその担い手を生み出したこと。そしてかかるある面では自立した高次の自然発生的運動の担い手が、一権力との政治的、国内的運動、経済的運動の担い手となつた。権力の押し崩れ、フアシム（朝鮮への衝動と破壊法、現代的ナショナリズムと分断的暴力支配）を促進し、かつ広汎な下からのフアシム派を顕在化させ、これに國際共産主義の危機が媒介されつつ、この権力一自然発生的斗争一没落しつつある民主主義秩序派一フアシム派の分解と、一在保軍一経済危機解決の次元が別の質的次元一戦争の革命が一（或は権力の存否）に移行し、その階級関係が過去の権力対口細米と秩序派の未分化「マロツク」の對抗関係から秩序派の分解を経て革命党のより高度な指導が保障され、一階級、一権力とフアシム派との未分化の着を通じて権力と市民社会内部から二重包囲される階級関係に移行し、高次の自然発生的運動が再分解しつつあるのが現時点であること。③革命党により高度な指導が獲得されるか否かによつて、この高次の自然発生的斗争より高い段階に引き上げられるか、孤立一分解するかの両方についていること。④だがこの革命党のより高度な指導は、その飛躍の任務が決定的に武装蜂起の水準であるが故に、「現代帝国主義と世界革命」から現代の「革命的昂揚から革命情勢」のはつきりした規定と、後者へ飛躍を展せしめる「諸戦術

とその媒介的中间政治組織（共青、SSLの技能と任務）の任務と党の型「党建設論」が即ち現代革命の権力斗争の確立が要求され、勿論これを確定しつつ決定的な実践が要求されていること。⑤にもかかわらず一革命情勢の諸政治組織はその重さに理論的にも組織的にも実践的にも欠乏はないが故に斗争はその飛躍の位置、その任に、認証が彼らの自然成長観故に欠落した無自覚であり、稀薄で中途半端にしか理解できないから、そのかしたりにしてあること。そして総体として諸政党がかかる自然発生的運動の極限的分解に無自覚に巻き込まれ大衆と同列の水準に落ち込んでいくこと。⑥そして革命的組織の内部に、飛躍するべきか否かをめぐつてもっとも核心的な一目的意識性と自然発生性一、党と大衆一、蜂起とソヴィエト等の次元での一何をなすべきか」の内実が現代革命に於ける高次の自然発生性と高次の意識性と二重になりつつ論争され根底的な次元に進行していること。⑦そして経済主義一日和見主義潮流はアレコレのこたえを並べつつも、結局下からの論理を党の次元にもち込み、それを修正主義的帝国主義論、修正主義国家論で粉飾し、現代第四主義論における修正をその現代性の名の下に行いつつあること。

以上が現時点に於いて完全に大衆に転じているが故に、目的意識性や党の役割が全く分らないまま、一目的意識性と自然発生性一等々の形而上学的関心を以ていてあること。それ以上には決定的な危機なことは、自らの飛躍せしめる党的指針と飛躍を通じて党建設を實踐に獲得することが大衆と競争してアレコレの細微獲得と大衆にひきとらつて取捨しているのである。

それ故、革命的共産主義にとつて自己の任務を負担するためには、まずオニに、かかる総体を把握し、オニに、「現代帝国主義国家と世界革命」一革命的昂揚一革命情勢に於ける諸戦術一党と大衆をつなぐ中間的組織の質、形態、その内部機能、そして党の役割と党の型、技能一等を体系的に獲得しつつ、オニに、彼の具體的任務と党建設方針をしっかりと確立し、オニに、その實踐に於いて経済主義一自然成長論を粉砕する独自の党建設を貫徹することである。

それではオニの課題に移ろう。